

## 編集後記

「本は飾り物か、否か」友人と語ったことがある。私は、本はあくまでも“読み物”であり、装丁は読み始めるための、いわば本の自己紹介のようなものだと考えている。しかし、友人は“飾り”の本があってもいい、と言う。内容は冴えなくても、装丁の美しい本はそれだけで惹かれるのだそうだ。確かに、昔は豪華な装丁を尽くした本がたくさんあったようである。ひとつひとつ木版画で刷ったもの、本を包むパラフィン紙や箱にまで気が遣われたものなど、手間ひまを惜しむことなく作られた本が多数存在したと聞く。そういえば、以前立ち寄った古書展で、フランス文学学者の生田耕作氏とご子息の敦夫氏が2代にわたって蒐集された美しい装丁本の展示会をしていた。ガラスケースの中にかしこまって鎮座している本たちを眺め、多くの人たちが感嘆の息を漏らしていた。私はその会場でも少し違和感を持った。美しいものは美しい。私だってそれぐらいはわかる。しかし、やはり本は“読み物である”という概念をぬぐいきれない。内容からあふれ出るオーラを感じさせてくれる装丁、それが理想の装丁であると信じている。それ以上でもそれ以下でもなく一。

(若杉亜矢)

### 会誌編集部員

部 長：増 田 徹 (藍野大学)  
 部 員：井 上 智奈美 (三菱京都病院)  
           寺 澤 裕 子 (関西労災病院)  
           松 尾 知 香 (石切生喜病院)  
           若 杉 亜 矢 (松下記念病院)

### イラスト

松 尾 知 香 (石切生喜病院)

病院図書館 第25巻 第3号

季刊

2006年1月31日 発行

定 価 ￥1,500 (年間購読料 ￥6,000) 送料込

発行所 近畿病院図書室協議会

〒651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町2-1-1 社会保険神戸中央病院医学資料室 気付

TEL (078) 594-2616 FAX (078) 594-2289

印刷所 (株)リョーイン京都営業所

〒616-8501 京都市右京区太秦巽町1番地 三菱自動車工業(株)パワートレイン製作所内

TEL (075) 881-9173 FAX (075) 882-4810